

国際シンポジウム 日本語・日本文学研究の現在

主催 輔仁大學日本語文學系・上智大学大学院国文学専攻

日時：2017年12月27日 13:10-17:20

場所：輔仁大學聖言ビル 901

司会：坂元さおり先生

13:10-13:20 (10分)	開会の挨拶
13:20-14:40 (80分)	<p>研究現況報告</p> <p>上智 (5分×7名=35分)</p> <p>葛西太一 日本書紀の段階的な編纂に関する研究</p> <p>宮川優 古風土記編纂の様相</p> <p>石上真理 伊藤左千夫の自然主義批判</p> <p>斎藤知樹 日本地獄説話の変化と継承</p> <p>藤田亜美 『源氏物語』の主題と作品構造</p> <p>立川萌 横光文学における恋愛と〈感情〉作用について</p> <p>洪麗婷 明治末から大正始めの文学作品における〈不安〉</p> <p>コメント (10分)</p> <hr/> <p>輔仁 (5分×5名=25分)</p> <p>黄品慈 日台ミス産業推進状況</p> <p>周智弘 宮沢賢治の方言文学—標準語と近現代思想のイメージ</p> <p>游 雅 伊坂幸太郎の作品についての研究</p> <p>曾韋銘 台湾における日本文化の受容とイメージ変化—抹茶を例に</p> <p>翁婉榕 日本語における借用語の研究—台湾の用例を中心に—</p> <p>コメント (10分)</p>
14:40-14:50 (10分)	ティー・ブレイク
14:50-16:10 (80分)	<p>研究発表 (1) 文学→3名発表 (20分×3名)</p> <p>木村素子 芥川龍之介「芋粥」論—精神の落差—</p> <p>村山麗 夏目漱石『道草』論—ヒステリーという《病》</p> <p>周智弘 『注文の多い料理店』論—「異郷」のイメージを中心に</p> <p>質疑応答 (20分)</p>
16:10-16:15 (5分)	ティー・ブレイク
16:15-17:10 (55分)	<p>研究発表 (2) 語学→2名発表 (20分×2名)</p> <p>中野遥 中世西洋辞書に於けるキリシタン版『日葡辞書』の位置付け—注記の機能を中心に—</p> <p>羅 婕 日本におけるグローバル人材の育成</p> <p>—大学の産学官連携を中心に</p> <p>質疑応答 (15分)</p>
17:10-17:15	閉会の辞